

対がん10か年総合戦略：革新的な診断・治療法の開発 粒子線治療の臨床的有効性の確立及び治療装置の小型化等

“切らずに治す”重粒子線がん治療
— より強くより優しく—



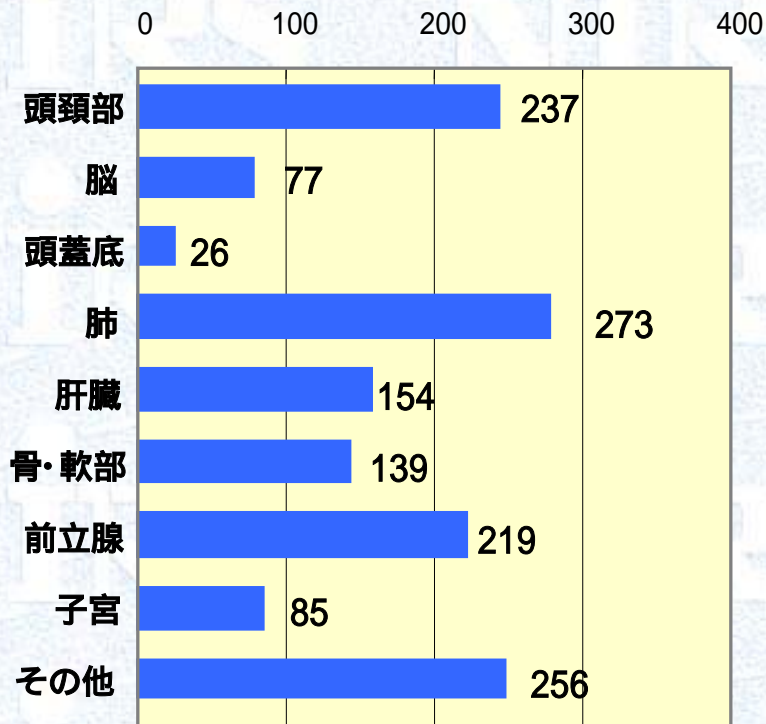
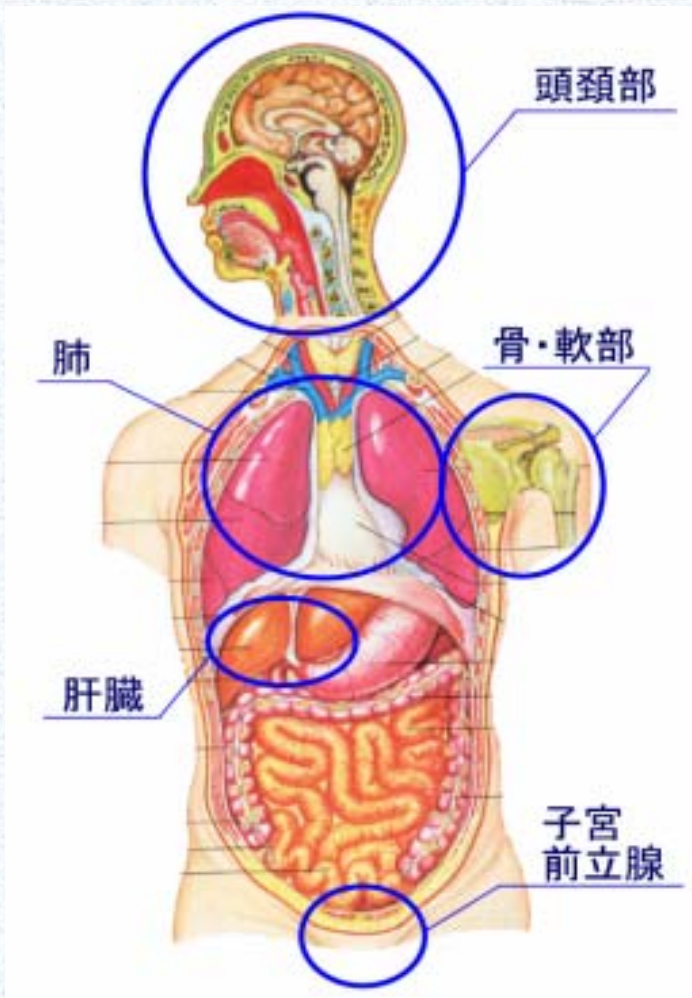
がん克服新10か年戦略の主な成果(平成6年～平成15年)

< 重粒子線がん治療装置等の新しい治療機器の開発とその臨床応用に関する研究 >

- < 目標 >
 - ・ 重粒子線がん治療の臨床試行の着実な推進と国民医療の中への重粒子線がん治療の定着
 - ・ 効率的な治療システムの開発
- < 成果 >
 - ・ 平成15年2月までに、1,463名(1,511病巣)に炭素線治療を適用(平成6年度～)
 - ・ 高度先進医療の承認を申請(平成14年度)

放医研での重粒子線がん臨床試験

2003年2月現在, 全症例数 1,463



その他には、膵臓、直腸などの部位のがんに加え、「総合プロトコル」として実施したため、各部位に分類されない症例が含まれる

放医研における炭素線治療の登録患者数

2002年延べ治療患者数 約300名

